



水ロケット発射

小林地区公民館親子ふれあい教室

六月二十四日、小林地域生活センターで、親子ふれあい教室が開かれました。これは、「親子で工作をしたり、映画を見たりしながら物の大切さを学んでもらおう」と小林地区公民館と県貯蓄推進委員会が主催したもの。教室には親子合わせて二十人が参加しました。

最初は、県の貯蓄推進委員の話を開いたり、アニメを見たりして、お金や物の大切についての学習。その後、理科センターの塚田修二先生を講師に、ペットボトルを利用した水ロケット作りに挑戦しました。水ロケットは、空いたペットボトルに水を入れ、空気を送り込んで高く飛ばすというものです。色付きのボール紙で翼をつけたりしながらロケットの形にしていきました。できあがったロケットを手に、子供たちは外へ。三脚に出来上がったロケットを立てて、空気入れて必死に空気を送り込みます。ロケットは、ボンッと音とともに発射。かなりの高さまで飛んでいきます。中には必死に空気を入れているうちに飛んだ瞬間を見逃してしまう子供も。子供たちは飛ぶたびに歓声を上げて喜んでいます。



選手、地元ボランティア大活躍

身体障害者体育大会第2地区大会

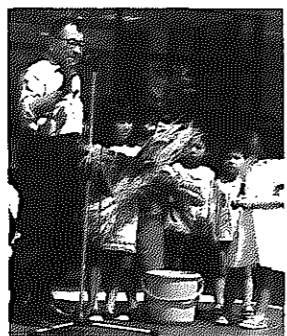
六月二十五日、身体に障害を持つ人たちがスポーツを通じて体力の維持と積極性を養うことを目的とした第二十三回県身体障害者体育大会第二地区(三市中東蒲)大会がカルチャーセンターで行われました。大会には新津、五泉、東蒲、中蒲、白根の五チーム約百八十人の選手が参加し、缶つり競争、ボール手送りリレーなど七

種目に熱戦が展開されました。それぞれの種目に選手に優しい工夫がなされ、大会関係者、ボランティアの丸となった協力と選手の頑張りが微笑ましい場面を数多く生み出しました。結果は五泉チームの二年連続優勝を許しましたが、地元中学、高校生の若きボランティアの熱い声援に精いっぱい頑張った白根市チームでした。

本物の樹木を1千人が1万本

ジャスコ1千人1万本植樹祭

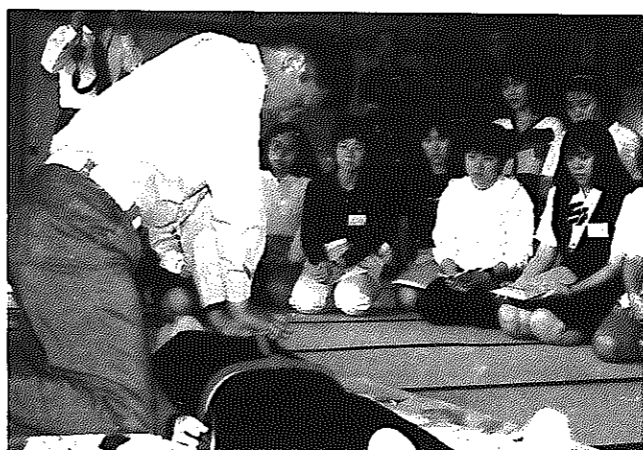
▼宮脇教授と子供たち



六月二十五日、ジャスコ白根店がオープン前に「1千人、1万本植樹祭」を開催。指導に当たった宮脇昭横濱国立大名誉教授が災害に強いと絶賛するタブノキ、シイ、カシなどの苗木一万本が、地権者、地元出店業者を含めた1千人近い参加者によって一本一本心を込めて植えられました。長年慣れ親しんだ理研電線白根工場のある風景を一変させた大型店。その姿が市民の目になじむころ、苗木たちはどんな緑をみせてくれるでしょうか。

恥ずかしがってちゃだめ

白根地区消防本部応急手当講習会



人工呼吸、心臓マッサージは応急手当の基本。アメリカでは子供でもできることですが、なぜか日本ではあまり浸透していません。白根地区消防本部では応急手当の普及を図ろうと六月二十四日、教育センターで講習会を開催。主婦やスーパリーの店員など三十人が参加しました。講義で救命処置の大切さを学んだ後、実際の事故を想定しながら人形を使った実践へ。人工呼吸ではなかなか空気が入らず四苦八苦。消防署員が「キス以上にガッパといかなきゃ」と笑いながらも懸命に指導します。力の要る心臓マッサージでは「こんなに疲れるとは思わなかった」と、受講者は肩を息をしながらびっくり。それでも最後には固さも恥ずかしさもとれて、全員が修了証を手に入れました。

「救急現場では応急手当によって救命率が左右されるんです。これからの講習会を開いて普及を図りたい」と同本部。あなたもぜひ身に着けてみませんか。問い合わせは白根地区消防本部救急救助係(☎372・3111)へどうぞ。

TNN24時間テレビ 愛は地球を救う



六月二十五日の夜、チャリティー白根寄席が開かれました。これは落語をもっと身近に感じてもらうとサルナート吉運堂がTNN24時間テレビと協賛して開いているもの。今年で五回目です。寄席はまず、国分健さんの漫談でスタート。小林旭、石原裕次郎、高倉健といった往年のスターの物まねを次々と披露。汗びっしりの熱演に、満員の会

楽しい寄席に大笑い

吉運堂チャリティー白根寄席

場は一気に盛り上がり。続いては、自称「人気はなくて陰気な落語家」の古今亭寿輔さん。寿輔さんは、この日、東京から白根市へ来るまでの珍道中を面白おかしくアレンジして披露。詰めかけた二百人を超す聴衆は大爆笑で、すっかり引き込まれていました。この日の寄席の収益金の一部は、愛は地球を救うチャリティー募金に寄付されました。



小雨降る六月十六日、つくし園の園庭整備に汗を流してくれたのが、白根建設業協会青年部(安達公明会長)の皆さん。「少しはお役に立ったかな」と、笑い顔もさわやかです。同青年部が市内の保育園へ労働ボランティアに出向くようになったのは、十四年前。「男手が足りない保育園のお手伝いをしよう」と始められ、以来すっかり毎年の行事に。同時に市内十数カ所の保育園に各二トンほ

若き力、勤労奉仕

白根建設業協会青年部

どの川砂も寄付しています。今年、園庭整備が当たったつくし園では「花壇を造ってもらったり、枝降ろしをしてもらったり。やっぱり男の人がすると、見違えるようにきれいになりますね」と手放しの喜びよう。「大変喜ばれるので、私たちもうれしい」と安達会長。「年をとっても気は若いのがうちの部員たち。続けられるだけ続けていきたい」と頼もしく語ってくれました。